

おねがい

次第に暑さもまして参りましたが皆様には益々御健勝のこと、お喜び申し上げます。七夜目の、月六日が近づいて来ました。

今までのしくくらししていた人に
ピカドンがおちると
それきりみんな死んでしまふ。

へ 青森縣黒石小学校四年 飯口昭子 V

あの朝わたくしたちの周囲から多くの愛する人たちが消え去りました。あの日人類最初の原子爆弾が広島に落とされ、私たちがさ、やかに守つてきた幸福の殿後の一かけらさをも徹底にくたかれたのです。

いま再び戦争への危機が叫ばれ、日本平和憲法の行方さえ案せられるとき、戦争か平和かの世界の危機のなかで原子爆弾の存在がどのようにな大きな意味をもつていられるかを、私たちがよく感じさせられております。このように子供達が純真な心で原子爆弾をうたつた詩をみるとさうして深い感動をうけずにおられましようか。

今こそ原爆の眞の姿はもつとく、強く広く世界の良心に訴え、ねねはなりません。原爆に対する広島の子や婦人あるいは年よりの秘められた思い、特に子供たちの魂に湛えられた原爆への嘆きや怒りを詩のうたごえにのせて、日本全国いや全世界の人々の平和の誓いに鳴り響かせることは、正に急がねばならぬ大切な仕事であり、広島の私たちに与えられた大きな使命でもあります。

幸いに「原爆の凶しや」「原爆の子」によつて絵や文章では大きな反響をよび起してありますが、詩の方面では未だまとまつた計画がなされていなかつたところ、此の度び青木書店の企画により原爆の詩編集委員会をもうけ、その詩集が刊行されることになりました。

つきましてはこの詩集にせり貴方の作品を入れたいと思ひますので、御賛成の上原稿を御送り下さるよう御願ひ致します。

一九五二 六 一

原爆の詩編集委員会

峠 三 吉

東京都千代田区神田神保町一丁目六

青 木 書 店

尚、原稿は左記の要項にて御願ひ致します。

1. 詩の上下下手は回わす真摯の溢れたもの。
2. 出来るだけ原稿用紙を用いること。
3. 一人何編でもよいこと。
4. 原稿の終りに、生年月日・年令・住所・学校名又は職業・簡単な被害状況へ家族の死亡又は負傷・本人の傷害程度及び現状・当時居たところを付記すること。
5. 取捨は編集委員会に御委せ下さい。
6. 原稿のメ切は六月二十日へ八月までに出版の手筈。
7. 原稿送付先 広島市平野町平和第三アパート一五号 峠方 原爆の詩編集委員会